



2012年8月 第10巻第8号

### かく語りき—聖人の言葉

「我々という存在は、自らの考えから作られている。だから、自分の考えに注意するのだ。言葉は二の次だ。思考は生きている。思考ははるか遠くまで伝播する。」

(スワミー・ヴィヴェーカーナンダ)

「人間は信念で作られる。信ずるとおりの人となるのだ」

(『バガヴァッド・ギーター』 シュリー・クリシュナの言葉)

### 今月の目次

- ・かく語りき—聖人の言葉
- ・今月の予定
- ・韓国ヴェーダータ協会を設立
- ・2012年5月の逗子例会でのスピーチ  
「ホームレスの神様へのご奉仕」 寿日雇労働組合 近藤昇氏
- ・2012年8月の活動
- ・ナマステ・インド 2012のお知らせ

- ・忘れられない物語
- ・今月の思想

### 9月の予定

#### ・生誕日・

Vishuddha Siddhanta 暦では、2012年9月に生誕日はありません。

#### ・行事・

ハタ・ヨーガ・クラス

9月2日(日)、9日(日)、16日(日)、  
23日(日) 14:30~16:00

場所：逗子新館 (アネックス)

お問い合わせ：逗子協会

### 逗子例会

\*9月の最終日曜日に変更となりました。

9月30日(日) 10:30~16:30

スワミー・メーダサーナンダジー、インドとシンガポールを訪問

9月10日~19日

### 関西地区講話

9月22日(日) 13:30~17:00

場所：大阪研修センター

内容：『バガヴァッド・ギーター』と『ウパニシャッド』を学ぶ

### ナマステ・インディア 2012

9月22日(土)～23日(日) 10:00 am～8:00 pm (23日は7:30 pmまで)

東京・代々木公園 入場無料

協会では「GANGA CD-BOOK SHOP」という店名で書籍、CD他 数々の品物を特別価格で出品します。

### ナラ・ナーラーヤン (ホームレス神様への奉仕活動)

9月28日(金)

現地でのお食事配布等

お問い合わせ：佐藤 090-6544-9304

### 韓国ヴェーダーンタ協会を設立

2012年8月5日、在ソウルインド大使館員ディグヴィジャイ・ナート氏の個人的な呼びかけで、日本ヴェーダーンタ協会プレジデントのスワミー・メーダサーナンダジーや韓国在住のインド人らが集まって、韓国ヴェーダーンタ協会 (Vedanta Society of Korea) の設立と2013年のスワミー・ヴィヴェーカーナンダ生誕150周年記念祝賀会について会議を開催しました。

初めに、ここ数年ソウルでヴェーダーンタの講話を主催している、地元の大学の教授アビジット・ゴーシュ博士が

話をしました。続いてスワミー・メーダサーナンダジーが、これまでに何度も韓国に来てウルサン、プサン、ソウルなど各地で講話を行ってきたが、これまで協会を設立できずシュリー・ラーマクリシュナやスワミー・ヴィヴェーカーナンダが体現したヴェーダーンタの教えを研究・実践できなかったと話しました。



さらにマハーラージは、韓国の方々や韓国在住のインドの方々のために今こそ協会を設立すべきだと言い、ヴェーダーンタの特徴やシュリー・ラーマクリシュナとスワミー・ヴィヴェーカーナンダの生涯や教えについて説明しました。さらに、それらの教えが普遍的、理性的で調和に満ち、古くからあるが現代的で深い靈性に富んでおり、多くのストレスを抱え心に平安を得られない現代人をどのように支えることができるかを説きました。そして、世界各地のヴェーダーンタ協会が様々な国々の人々に対し大いなる道徳的靈的支えとなっているのだと言いました。マハーラージは、協会の設立、運営お

よびプログラムについて種々の提案をし、出席者は韓国ヴェーダーンタ協会の設立に強く賛同しました。

討議の後、以下の項目が全会一致で決議されました。



1. 2012年8月5日付で「韓国ヴェーダーンタ協会 (Vedanta Society of Korea)」の名称で協会を設立する。

2. 協会はその目的を、ヴェーダーンタ、シュリー・ラーマクリシュナおよびスワミー・ヴィヴェーカーナンダの教えの研究・実践・普及とする。

3. 協会はその受益者を当地の韓国人およびインド人とし、カーストや信仰する宗教を問わない。また協会は、韓国国籍の者の協会への参加を促すよう特に努めるものとする。

4. 協会は現在リソースが限られていることを考慮し、リソースが増加し始め協会がラーマクリシュナ僧団の正式な支部となるまで、当面は少数のプログラムを実施するものとする。

5. 協会は、下記のプログラムなどを行うものとする。

a) 以下の形式で月例会を開く：インド哲学に関する書籍の輪読、意見交換、誘導瞑想、リラクゼーション方法の説明など。

b) 月例会は2時間とする。

c) 月例会は毎回議事録簿に記録し、これを保管する。

d) 月例会は、毎月第2土曜日の午後3時～午後5時に開催する。

e) 場所：インド大使館のインディアン・カルチュラル・センター（許可申請中）

f) 書籍を韓国語に翻訳して発行

g) ウェブサイトの作成

6. 初代委員

・アビジット・ゴージュ博士 (Dong Seoul University 准教授)：チーフ・コーディネーター

・カストゥリ・デイ氏 (IT コンサルタント)：コーディネーター (インド人)

・ホリミ氏：コーディネーター (韓国人)

・スミット・アロラ氏とシャクティ・ラナ氏 (インド大使館員)

・パルタ・デ氏：ウェブサイト

7. スワミー・メーダサーナンダが協会の霊的アドバイザーとなる。

8. 銀行口座を開設し、資金を必要とする活動のためにこの口座に寄付金を預

金する。これらの金銭は、カストゥリ・デイ氏が正しく記録する。

9. スワミー・メーダサーナンダとアビジット・ゴーシュ博士は、インド大使に会って協会の定例会にカルチュラル・センターの使用が可能であるか打診する。

10. 2013年～2014年にスワミー・ヴィヴェーカーナンダ生誕 150周年祝賀会をふさわしいプログラムで開催する。シュリー・ラーマクリシュナやスワミー・ヴィヴェーカーナンダの書籍を韓国語に翻訳する際には、両者について十分な知識を有する学者が関わる。スワミーの掲げた世界の平和と調和のメッセージについて、特に若い世代における関心を高めるために、インド大使館と協力して韓国各地でのイベントとソウルでの閉会式を開催するなどの計画を立て、印韓関係の強化に努める。生誕祝賀イベントの開始は2013年6月8日を提案する。



会議の終わりにスワミー・メーダサーナンダジーは、協会の活動を推進するために年2回のソウル訪問を考えて

いと伝えました。この重要な会議を招集したディグヴィジャイ・ナート・カカール氏と奥様のウルミラ・ナート氏への謝辞で、会議は終了しました。

## 2012年5月の返子例会でのスピーチ 「ホームレスの神様へのご奉仕」 寿日雇労働組合 近藤昇氏

5月20日（日）、5月の返子例会にゲストをお招きしてスピーチをいただきました。初めに、スワミー・メーダサーナンダジーがゲストスピーカーを紹介しました。

「皆さんこんにちは。今日は、寿日雇労働組合の近藤昇さんにホームレスの人のお世話の経験についてお話をいただきます。近藤さんは20年近くこの活動をやっています。ここで、本日の返子例会にこのテーマを選んだ理由を説明します。我々のヴェーダータ協会はラーマクリシュナ・ミッションの支部です。ラーマクリシュナ僧団には2つの目的があり、僧団の創立者でありシュリー・ラーマクリシュナの一番弟子であるスワミー・ヴィヴェーカーナンダがこの目的を決めました。1つは自分の本性を理解すること。もう1つは、皆さんのお世話です。僧団のお世話のプログラムは、社会的なお世話でなく霊的なお世話で、貧しい人、困っている人の中に神様を見てお世話をします。礼拝にも2つの種類が

あります。1つは、お寺の中に祭壇を作って神様を礼拝すること。もう1つは、生きている神様を礼拝することで、貧しい人、病気の人、助けが必要な人の中に神様を見て、空腹ならば食べ物をあげ、服がなければ服を上げ、病気であれば治療を受けさせるという礼拝を行います。人は利己的ですから、非利己的になるために皆さんのお世話をすると心がきれいになります。スローミー・ヴィヴェーカーナンダは『無私は神だ』と言われました。ラーマクリシュナ僧団でも病院の病人を毎日見守りますが、本当にその病人を神様として礼拝します。近藤さんも同じような気持ちでホームレスの人々に接しています。近藤さんの経験を聞き、近藤さんからインスピレーションを受けたいと思います。」

#### 近藤氏のスピーチ

私は近藤昇といいます。現在 63 歳で出身は九州です。父は他界しておりますが、母と兄弟は田舎の方におります。私は日雇い労働者組合の者です。我々が活動している寿町という所は、日雇い労働者の町と言われてきました。このような町は全国にたくさんありますが、規模の大きなものは 4 か所位あります。最も大きいのは、あいりん、昔の釜ヶ崎で、大阪の新今宮駅付近に広がっていて人口も 2 万人を超えていると思います。2 番目が東京の山谷、3 番

目が寿町です。釜ヶ崎と山谷は古く、特に山谷は人足寄せ場というのがあって歴史があります。寿町は新しいですけど、行政はこの 3 つを三大寄せ場と呼んでいます。4 番目が名古屋にある笹島地区です。寄せ場というのは、主に建設産業を中心とした日雇い労働者が仕事を求めて集まってくる、そしてそれを採用する業者が集まってくる所なので、寄せ場、寄り場と言われるのです。特に関東以西にいくつかあり、沖縄の首里にもあります。

ご存知だと思いますが、日雇い労働者は日々雇われ日々解雇され、1 週間や 10 日などの短期雇用です。雇用期間が満了すると契約は終わり、当然退職金もありませんし、ボーナスも出ません。賃上げなどありません。非常に都合よく使われるだけです。なぜこういうことが建設産業であるかということ、建設産業は非常に巨大なピラミッド構造になっていて、頂点にゼネコンがあります。スーパーゼネコンは 6 社程しかありません。その下に企業がずらっと 1 次、2 次、3 次、4 次と層をなし、1 番下に零細の建設会社があって、そこに日雇いは雇われるのです。なぜそういう構造になっているのかということ、建物を建てるのを思い描いていただくと分かりやすいでしょう。基礎杭を打って地面の上にコンクリートの箱を作るわけですが、この箱を作る過程に最も人手が必要とされます。現場で枠を

作ってその中にコンクリートを流し込んでいくわけですが、コンクリートというのは時間が経つと固まってしまいますからできるだけ短時間に一気に作業をしなければならない。そのためには、大量の労力を一気に投入する必要があります。しかし、建物の躯体（くたい）が出来上がってしまうと、後は内装関係や外装の専門的な技術を持った人がいけばよいので、それまでの労働力は必要でなくなってしまう。建設の初期の段階では人手が大量にいるのですが、このような人たちを建設会社が抱えていると、給料を支払わなければならないので会社の利益が薄くなってしまいます。それで、初期的な労働力を確保する場所が必要になってくる。労働力のプールなのですね。採用して1週間なり10日なり契約を結んで働いてもらったら、賃金の精算をして終わりということ。今では携帯電話が発達しているので携帯で発注するというようになってきましたけれど、昔は業者が車で採用に来ていました。

このような短期雇用は、バブル景気が崩壊する前までは雇用と雇用の間が1日などと短かったけれど、今はその間がものすごく長い。1年で数日しか働いていないとか、3か月間1日も働いていないとか、怠けているわけではなく仕事がないのです。寿町には日雇いの職業安定所と、もう1つ公的な職業紹介というのがあるのですけれど、この2

つが職業紹介の機能を果たしていません。仕事がない、それでそこに求人を出す業者がどんどん減っていて、求人ゼロという日が何日もあるのです。

それまでは日雇い仕事で生活が成り立っていた人が成り立たなくなっている。バブル景気の崩壊までは非常に好景気でした。特に80年代は、朝暗いうちに町の中心に出かけて行くと人がごった返していて、そこには仕事を手配する人がいて、私にまで仕事に行かないかと声をかけてくるような時代でした。誰も生活の心配はしていなかったものですが、今は全く仕事がありません。90年代に入って、バブル景気が一気に崩壊して極端に仕事がなくなってしまうました。

日本の建設産業というのは最大の労働人口を持っていて、700万人くらいいました。今は激減して、業者も55万社くらいあったのが10万社ほどに減っています。中小零細ですから経済的な体力がない業者がほとんどで、資金がちょっとショートすると潰れてしまうのです。そうすると日雇い労働者はなかなか賃金を払ってもらえない。我々は労働組合の仕事が本業ですから労働相談というのをやります。バブル景気崩壊前までは年間100件程度の相談を受けていて、圧倒的に多いのが賃金の未払いでした。本当は賃金は1番目に支払わなければならないのに後回しにさ

れてしまうケースとか、ちょっと資金がショートしそうになったら工事代金を集金して社長が逃げてしまうとか、そういうことがたくさんありました。次が労働災害でした。全国の労働災害での死者のうち約4割は建設現場で起きています。墜落災害が多く労災は法律的に補償されるのですが、労災を起こすと業者は元請け業者の受けが悪くなるので事故があっても報告せず、ケガした人は会社の寮に泊めて仕事に出なくても賃金を払うからとして労災を起こさない。それから、宿舎や現場で殴られたりする暴力行為の相談でした。しかし、こういった相談もバブル景気崩壊後はパタリとなくなりました。今は年間数件です。つまり、不景気で仕事がなく仕事に就いている人も平気で賃金のカットをやられてしまう。これまでは仕事がたくさんあったので強気になれたけれど、今は悔しいけれど我慢してしまふ。それでどんどん賃金が切り下げられ、それでも次がないから我慢する。本業ならば我々の所に相談に来るようなケースでも、相談に来なくなる。

今、簡易宿泊所が寿町に122軒あります。人口6千500人いて15分くらいで1周できる町なのですが、8階建て、9階建ての簡易宿泊所があります。ヤドをひっくり返してドヤと言います。基本的に保証人もいらなければ礼金敷金もないので、お金を持っていれば誰で

も泊まれますが、日銭商売なのでお金がなくなると出て行かされます。仕事もなくなって手持ちのお金も尽きれば路上に行かざるを得なくなる。行く所がなくなったので外で寝る他なくなった、こう言う人たちがバブル景気の崩壊後に全国で急に増えました。

その頃から我々は現在のような活動を続けてきました。労働組合なのになぜそんなことをするのかというと、日雇い労働者は我々の同僚や先輩・後輩であったりするのです。そのような人たちが、朝ご飯を食べて仕事を探しに出たけれど仕事がなく、その日の夕方には路上にいるということになる。路上にいるのは当初は建設日雇い出身の人が多かったけれど、今は我々の同僚、先輩、後輩なのです。ですから我々は労働組合として、炊き出しと並ぶ重要な活動である夜間パトロール、すなわち夜間路上にいる人の所を訪ねてまわるといふ活動を神奈川県全域でしています。路上に人が寝るといふのは本来は非常におかしいのですから。

バブル景気の崩壊後、手持ちのお金が無くなって路上へ出る人が万単位で急増しました。その頃、我々が行っている支援活動に対して、彼らは怠けているのではないか、それを支援するのは間違っているとよく言われました。でも違います。もし彼らが怠け者であるとすれば、日本はバブル景気崩壊後に

全国的に急に怠け者が増えたということになります。そのようなことはあり得ないですよ。

もちろん、昔から路上にいる人はいましたけれど、ごく少数でした。経済的要因、つまり仕事がなくなって路上に出るということが90年代に入って急に全国で見られるようになりました。我々が炊き出しを始めたのが1993年12月1日ですけれど、その頃どこの公園、どこの河川敷、どこの地下道にも人が寝ているという状態でした。我々の町は平均年齢が高く60才以上が半数を超えていて、高齢化が急速に進行しています。くぬぎ会という老人クラブがあって、故人である当時の会長から、ホームレスの人々の現状にもう黙って見ていられないから炊き出しをやらないかという呼びかけがあり、町の諸団体が集まって炊き出しの会を作って始めたというのが第1回目です。スタート時は地面の上にたらいを置いてそこで作ったりしましたけれど、今はいろいろと設備が整っています。第1回目は250食でした。

我々は炊き出しを自動継続してはいませんし、必ずしなければならぬものだとも思っていません。炊き出しなどが必要でない社会をできるだけ早く作っていかないと駄目です。寿町に仕事がたくさん出てくる、そうしたら自分で働いて自分で泊まる所を確保して

自分で食事ができますよね。また、夜間パトロールで出会う人が減る。さらに、横浜市が法外援護としてやっている金券配布をもらう人が減る。金券とは、1日680円プラス消費税相当の券でパン券と言ひ、酒・たばこ以外のものなら寿町の店舗で交換できます。これは全国唯一横浜市だけのものです。これとセットになっている宿泊券、通称ドヤ券があり、これは横浜市が契約している1泊1300円以下の部屋に泊まれるという券です。最大時はこれをもろう人の数が千人を超えることもありました。これをもろう人の数が少なくなったら炊き出しをやめてもいいです。こういう炊き出しがいつまでも必要な社会は間違っている。

我々は毎年、今年は炊き出しをどうしようかと検討していて、いつの間にか19年経ちました。当初250食でスタートしましたが、残念ながらその数は今は右肩上がりです。先週の金曜日は650食程、今度の金曜日はおそらく700食を超えます。これは700人来るわけではありません。寿町の炊き出しは1人1杯ではなく食べ物がある間はいくら食べてもいいのです。我々が作っているのは雑炊で、今までの最高記録では井8杯食べた人がいます。

当初は冬の寒い時期にやっていました。最も寒さがこたえる冬の時期にお腹が空いていて寒いのは、辛いし氣力



が湧かない。だからせめて 1 週間に 1 度お腹をいっぱいにしてもらおうというわけです。なぜ週に 1 度なのかと言われますが、我々の食事を待つて皆がそこにいるわけではないし、職を探したり寝るところを見つけたり活動しているの、ここばかりを頼っていると他の活動がなくなってしまうし就労意欲が無くなってしまいます。

毎週金曜日の午後 1 時から配食するのですが、列を作って待っている間に情報交換が行われています。横浜の路上では昼夜同じ所に住んでいるという人はほとんどなく、一人ぼっちでいる人が多いから情報がほとんど入ってこないの、炊き出しの列の中で仕事の情報交換がされます。ここには仕事はないけれど名古屋の方にありそうとか、原発のがれきの片付けがあるとか、行政の施策の情報、襲撃情報、公園で寝ていたら石を投げられたとか殴られたとか。集団で住んでいるわけではないので、ここでお腹をいっぱいしたらまた 1 週間後にここで会おうとか、お互いに元気づけて励まし合っています。

寿町が寄せ場になっていった背景には、1958 年以降横浜は米軍の軍政地域が広く、日本全国の生産設備が爆撃で破壊されたため戦後すぐに生産能力がなかったことがあります。当時、横浜へ行ったら米軍の荷揚げの仕事がある

というので全国から労働者が集まりました。その当時の寄せ場は JR 桜木町駅の前の野毛という所で、全国から集まった日雇い労働者が車に乗せられて仕事場に行ったのが始まりでした。職安が野毛から寿町へ移ったりする過程で、青空労働市場、すなわち道に立っていると仕事に誘ってくれるというものも徐々に寿町に移ってきました。これが、日雇い労働者の町・寿町のスタートです。

90 年代に入って現在まで、残念ながら寿町で仕事が増えたということはありません。仕事の紹介は、2 つの公的紹介所と手配師という暴力団関係者が約 7 割程度紹介をしていますが、この手配師すら失業してしまって姿が見えません。一方で、3 月 11 日の地震以降、危険ではありますが福島原発の仕事が増えています。放射線を 7 シーベルト以上浴びるとすぐではなくてもほぼ 100%死ぬと言われていますが、原発の現場では 10 シーベルトに達しており、必ず死ぬと言われるが仕事がないから行くのです。行くのは家族のつながりが薄い人が多く、原発の事故以来、男性単身者が多い寿町にはスカウトマンが頻繁に現れました。一般の建設現場の賃金はすべて込みで (1 日) 1 万円くらいが相場ですけれど、1 万 2、3 千円から 7 万円まであります。年間被曝量の関係からある時期が来たら交代させなければならないために、常に 3 千人

位を確保しておかなければならず人手がいるのです。

路上生活者は住所がないので生活保護を受けることができません。住所がないと、免許証が更新できず年金ももらえないので、横浜市中区の依頼で、そういう人は横浜生活館（寿生活館）に住所を置くことを許しました。ところが、大阪で4年前に同様のことをしていた所が3千人も住民登録をしているのはおかしいと問題にされ、200人余りが職権で登録を抹消されました。その時、寿町にも100人登録があるということで中区の職員が調査に来て53人が登録を消されました。そもそも中区から依頼されて当人の役に立てばよいとしてしたことだったのに。

住所とは住民基本台帳によると、客観的な居住の実体と主観的な居住の意思の2つを満たしていること、とされています。外洋航路の船員さんで単身者の場合は、船は動くので船の繫留地が住所となります。日雇い労働者の場合も、彼らの意思によるものではない路上生活は特例ではないか、今は失業が深刻化しているので仕事をしないことによる無収入状態が続いて生活が困窮している、というのが認められるようになってきました。炊き出しの時、隅に机を出して、生活相談、法律相談、健康相談を行っています。相談者が役所に行って困らないように、役所には

そこのメンバーが同行し、きちんと申請できるようにします。路上にいるということは、日本では社会に復帰するのが難しい。会社には入れないのでお金を貯めるためにアルバイトをする。保証人がないとアパートにも住めない、そうするとちゃんとした仕事もできない、となってしまいます。

全国の市町村で毎年1月にホームレス実態調査を行い、4月に発表しており、9千700人減ったとのこと。しかしこれは概数目視調査で、労働時間中に行って数えるので、夜間だけ商店の前に段ボールを敷いて寝るような人は人数に入っていない可能性があり、実際には1.5~2倍ぐらいいるのではないかと思います。横浜市の発表は600人です。全国最大の支援センターが寿町にあるのですけれど定員は250人、女性と子供のフロアが20人、ととても足りないにも関わらず他に作る予定はないそうです。

路上に人がいなければならぬ社会は間違っています。一人一人が自分の生を全うできるような仕事、住む所、食事を確保することは基本的な生きる権利であるのに、自分の力ではどうにもならない人たちが日本全国に万といます。我々がやっていることは本当に小さなことだけれど、こういう現状があるということを知っていただきたい。キリスト教の学校の中学2年生が45人

ずつ4週続けて合計180人来るようになっていきました。寿町の炊き出しを当てる人がこんなにいるということを知ってもらいたい。

自分ではどうにもできず路上生活を送っていると怠け者と言って子供たちが石を投げる。20か所ほどで路上生活者が襲われ3人の方が亡くなりました。死に至らしめた子供たちは保護されたとき、ゴミを掃除したと言ったそうです。人の生命を奪ったという感覚はないのです。経済的な要因で路上に排除される。それは本人の責任であるケースもあり得るけれど、そうでないケースが圧倒的に多い。その結果、怠け者だ、公園を勝手に占拠している、だから出て行け、出て行かないのは困った奴だ、地域社会や大人や親が迷惑だと話をしているので、あいつらは迷惑者だと思い中学生が石を投げる。最近では自転車で来るのです。一番小さい子が小学4年生がいました。

夏の一時期を除いて、路上の夜は冬、そこで生命を落とす。我々は寿町の中で彼らと出会う活動をやってきました。それだけでは足りないなので県内、市内、いろいろな所で路上生活者を訪問してまわる活動を93年から始めました。

残念ながら我々のやれている範囲は非常に小さい。ですからいろいろな人に、路上にいる人の現状や寿町の現状

を広く知ってほしい。多くの人に来て炊き出しもシェアできるかどうか分かりませんが、来る人は全部来てほしい。寿町を知ってもらいたいことは必要です。

## 2012年8月の活動

### 御岳山での夏季霊性修養会

7月27日(金)～29日(日)、東京・御岳山で恒例の夏季霊性修養会(リトリート)が開催され、今年も大きな成功を収めました。リトリートのレポートは近号のニューズレターに掲載の予定です。

### マハーラージ、韓国を訪問

日本各地のサットサンガで数多くの講話を行っているスワミー・メーダサーナンダジーですが、8月4日(土)～7日(火)に韓国・ソウルも訪問しました。(本号に韓国訪問の記事が掲載されています。)8月5日(日)、インディアン・ホールで「前向きな生き方(Positive Living)」をテーマに講話を行いました。また8月7日(火)には、韓国ヴェーダーンタ協会(Vedanta Society of Korea)のチーフ・コーディネーターのアビジット・ゴーシュ博士と共に在韓インド大使に対し、韓国ヴェーダーンタ協会の設立と同協会の月次例会の開催場所として大使館のカ

ルチュラル・センターの使用を申請しました。その後、大使館から承認をいただきました。皆さん、おめでとうございます。

### ヨーガスクール・カイラス横浜校にて、 シュリー・クリシュナ生誕祝賀会

8月9日(木)、スワミー・メーダサーナンダジーは協会の信者の方数名と共に、ヨーガスクール・カイラス横浜校のシュリー・クリシュナ生誕祝賀会に出席しました。マハーラージはアラティ(礼拝)を執り行い、続いて皆で聖句を朗唱し賛歌を斉唱しました。またマハーラージはシュリー・クリシュナについて講話も行い、カイラスの松川慧照先生もお話をされました。その後、皆でおいしい夕食のプラサードをいただきました。

### マハーラージ、マニラを訪問

8月22日(水)～27日(月)、マハーラージはフィリピン・マニラを訪問しました。訪問の詳細は、近号のニューズレターに掲載の予定です。

### ナマステ・インディア 2012のお知らせ

2012年9月22日(土)～23日(日)

入場無料

10:00 am～8:00 pm (23日は7:30 pmまで)

東京・代々木公園

協会では「GANGA CD-BOOK SHOP」を出店して、書籍、CDなど数々の物品を特別価格で販売しますので、どうぞお立ち寄りください!

イベントの詳細はこちら

<http://www.indofestival.com>

Incredible India  
Namaste India 2012 日印交流と親善のために  
インドへの航空券が300円割引で当たる!!  
日本最大級のインド・フェスティバル

# ナマステ・インディア 2012

ナマステ・インディアはインドと日本の相互理解を深めるための文化交流イベントで、毎年2000名以上が参加し、今年も2000名以上が参加予定です。  
今年初のナマステ・インディアは日印交流60周年記念公式行事として開催されます。

9/22 sat・23 sun  
入場無料  
開場 10:00 AM ~ 8:00 PM  
(9/23日は7:30 PMまで)

メイン会場 東京都代々木公園イベント広場  
第二会場 たばこ壺の博物館 (入場料100円が必須です)

お問い合わせ  
NPO日印交流親善センター TEL: 03-5752-2798  
ナマステ・インディア実行委員会 TEL: 090-6943-1400  
[www.indofestival.com](http://www.indofestival.com)



## スワミー・メーダサーナンダジー 九州熊本訪問

マハーラージは6月22日～24日  
九州地方各地を訪問されました。

6月22日 阿蘇  
23日 熊本菊池村  
アンナプールナー農園  
24日 熊本市



## 忘れられない物語

### 雌牛とキュウリ

ゴパール・バールは、あるとても貧しい夫婦の家の隣に住んでいた。夫婦はよく空想にふけていた。ある日、夫が妻に言った。「お金があったら、雌牛を何頭か飼うのになあ」



すると妻が言った。「そしたらミルクがいっぱい取れるよ。それでバターとギーをいっぱい作ろう。それに妹のところにも分けてやれる」

「妹に分けてやるだと！」夫は大声で言った。「何てことを言うんだ」

「でもミルクが余るほど取れるだろうから」妻が言った。

「ミルクは売るんだよ。もうこれ以上この話はしないぞ。俺がいない間にお前がミルクを妹のところ運ばないように、これから家中の壺を割ってやる」夫はそう言うと、家の中にある壺を4つも5つも床に投げて粉々に割った。

ゴパール・パールはちょうどその時夫婦の家の前を通りかかり、夫になぜ壺を割っているのか聞いた。理由を聞くと、ゴパールは棒きれを拾って自分の周りの空(くう)を激しくたたいた。

「何をやってるんだ」夫は当惑して訪ねた。

ゴパールは答えた。「あんたの家の牛を追っ払っているんだ。うちの庭のキュウリをみんな食べちゃうからね」

夫は腹を立て、大声で言った。「キュウリを食べるだと。お前のうちには庭だってないのに」

「そのうち庭を手に入れるから、そしたらそこにキュウリを植えるんだ」ゴパールはそう言うと、再び棒で空をたたき始めた。

夫婦は、「たら・れば」の話に夢中になるのがどれほどばかげているかゴパールが分からせようとしているのに気付く、自分たちが恥ずかしくなった。

(インドの伝承)

## 今月の思想

「思想の価値は、それを活かすことにある」

(ラルフ・ウォルド・エマソン)

**発行：日本ヴェーダーンタ協会**

249-0001 神奈川県逗子市久木 4-18-1

Tel: 046-873-0428

Fax: 046-873-0592

Website: <http://www.vedanta.jp>

Email: [info@vedanta.jp](mailto:info@vedanta.jp)